

平成27年度

## 青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課  
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、平成27年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を3月10日(火)に実施し、9,976人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語と英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には15点、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、国語は4.5点下回り、社会は10.6点、数学は4.3点、理科は5.7点、英語は0.4点上回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「平成27年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	1	0.0	25	0.3	57	0.6	17	0.2	3	0.0
90～99	177	1.8	902	9.0	501	5.0	492	4.9	964	9.7
80～89	1,077	10.8	1,705	17.1	1,289	12.9	1,508	15.1	1,717	17.2
70～79	2,348	23.5	1,767	17.7	1,517	15.2	2,082	20.9	1,583	15.9
60～69	2,599	26.1	1,576	15.8	1,579	15.8	2,100	21.1	1,375	13.8
50～59	2,056	20.6	1,299	13.0	1,423	14.3	1,688	16.9	1,294	13.0
40～49	1,113	11.2	1,034	10.4	1,170	11.7	1,131	11.3	1,159	11.6
30～39	438	4.4	765	7.7	983	9.9	554	5.6	965	9.7
20～29	130	1.3	563	5.6	743	7.4	269	2.7	589	5.9
10～19	27	0.3	295	3.0	491	4.9	107	1.1	282	2.8
0～9	10	0.1	45	0.5	223	2.2	28	0.3	45	0.5
0(再掲)	3	0.0	1	0.0	6	0.1	1	0.0	1	0.0
受検者数	9,976	100.0	9,976	100.0	9,976	100.0	9,976	100.0	9,976	100.0
平均点	63.2		62.8		56.8		63.7		61.9	
標準偏差	14.5		21.5		22.9		17.7		22.0	
最高点	100		100		100		100		100	
最低点	0		0		0		0		0	
前年度平均点	67.7		52.2		52.5		58.0		61.5	

\*得点一覧表の各教科の値(%)は、全受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

## 国 語

①の放送による検査は、「図書委員会の一年間の取り組み」についての報告を資料を見ながら聞き、内容や表現の仕方をとらえる力、聞き取った内容と資料の関連を考えながら、条件に即して適切に表現する力をみる問題である。(1)の、報告の内容について聞き取る問題、(3)の、報告の構成や展開を考えて聞き取る問題は、いずれも正答率が9割を上回った。(2)は、報告の内容を的確に聞き取る問題であり、正答率は約6割であった。(4)は、写真かグラフのどちらか一つの資料を選び、報告の中のどのような内容を効果的に伝えているかまとめる問題であり、正答率は約5割であった。「写真で示していて見やすい」、「グラフで示していて分かりやすい」など、資料と報告の内容の関連について踏まえていないものが見受けられた。

②は、漢字の問題である。(1)の読字では、ウ「珍重」を「ちんじゅう」と読んだ誤答が多く、正答率は約4割であった。書字では、ク「紅潮」を「硬張」、「高潮」など、同じ読み方の別の漢字で書いた誤答が多く、正答率は約2割であった。(2)は、同音異義語を選ぶ問題である。ウ「既成(事実)」は、「規正」や「規制」を選んだ誤答が多く、正答率は約6割であった。②全体の正答率は総じて高かった。漢字については、文脈に合わせて正確に判断し、適切に用いる力を養うとともに、語いを増やすことが大切である。

③は、『醒睡笑(せいすいしょう)』からの出題である。(1)の、文章の展開に即して語句の意味をとらえる問題、(2)の、文脈の中における主語に当たる人物をとらえる問題は、正答率が約6割であった。(3)は、【解説】の内容を参考にしながら、【古文】の内容についてまとめる問題であり、正答率は約1割であった。「つれづれ草は毒のある草だと言った」など、文章の内容を正しくとらえていないものや、「文字を知らないのに知ったかぶりをしている」、「この話は、『不文字』という章に収められている」など、【解説】の内容の単なる抜き出しに終わったものが多かった。(1)、(2)、(3)ともに、文章全体の内容を見通してとらえる力が求められる。

④は、須藤靖貴(すどうやすたか)の『どまんなか』からの出題である。(1)は、文の成分についての理解をみる問題であり、正答率は約3割であった。誤答としては、1「雨さえ降りだした」を選んだものが多かった。助詞のみに注目して文節の働きを誤ってとらえたものと思われる。(2)は、文章の展開に即して登場人物「おれ」の気持ちをとらえる問題であり、正答率は約6割であった。(3)は、「おれ」の考える「熟慮断行」についてまとめる問題であり、正答率は約2割であった。「丁寧に考えて決める」、「全力で立ち向かう」のどちらか一方の内容しか踏まえていないものが多かった。(4)は、文脈の中における語の意味をとらえる問題であり、正答率は約9割であった。(5)は、登場人物「ハカセ」の気持ちや、条件に即してまとめる問題である。「カエル」とホームに「還る」という意味のつながりに言及せず減点されたものや、「たたずまいがせごどん新監督に似ている」など、文章の内容を踏まえていないものが多かった。

⑤は、山田敏弘(やまだとしひろ)の『日本語のしくみ』からの出題である。(1)の、助動詞の働きについての理解をみる問題、(2)の、文章の論理の展開の仕方をとらえる問題の正答率は、いずれも約9割と高く、基礎的・基本的な学習内容の定着がうかがえる。(3)Ⅰ、Ⅱは、文章の展開に即して内容をとらえ、文章中の空欄に適する語を選ぶ問題であり、いずれも正答率は約6割であった。ⅠとⅡが対比関係にあることを踏まえていないものが多かった。(4)アは、文脈の中における語の意味をとらえる問題であり、正答率は約7割であった。(4)イは、自動詞と他動詞についての筆者の見方や考え方をとらえる問題であり、正答率



## 社 会

①は、地図を活用する力や、ブラジルの農業や経済、エネルギーに関する基礎的・基本的な知識・理解をみる問題である。(2)イは、1人あたりの国民総所得の変化と主な輸出品と輸出額を表している統計資料をみて、ブラジルについて表しているものを選ぶ問題である。正答率は約4割であり、誤答としては、「南アフリカ共和国」や「タイ」についての選択肢を選んだものが多かった。様々な統計資料を的確に読み取り、多面的・多角的に考察し判断する力が大切である。(3)は、略地図をみて、地球上でシンガポールの反対の地点の経度を求め、適切なものを選ぶ問題である。正答率は約7割であり、誤答としては、正答と10度異なる「4 西経85度」を選んだものが多かった。経度が、本初子午線を0度として東経、西経を180度に分けたものであることを地図から読み取れず、正確に地球上の正反対の地点を探ることができなかったと思われる。地球儀や世界地図を活用し、地理的スキルを身に付けることが大切である。

②は、日本の気候や地形に関する基礎的・基本的な知識や、東北地方の工業の変化について、資料を読み取る力をみる問題である。(1)は、略地図をみて、冬に日本海側に多くの雪をもたらす季節風の向き（北西）と、対馬海流の種類（暖流）の組み合わせとして適切なものを選ぶ問題である。正答率は約5割であり、誤答としては、北西の季節風と対馬海流が寒流である組み合わせの「2」を選んだものが多かった。日本海側の冬は多くの雪が降るといった地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、といった地理的な見方や考え方が大切である。(4)アは、略地図をみて、東北地方の工業団地の分布から、東北自動車道沿いに工場が進出した理由を書く問題である。正答率は約7割であり、誤答としては、指定語（製品）を用いずに説明しているものが見受けられた。

③は、日本のおもな時代の政治のしくみと当時の社会のようすに関する知識・理解や、資料を読み取る力をみる問題である。(2)アは、カードをみて、室町幕府の職（管領）を書く問題である。正答率は約3割であり、誤答としては、「執権」が多かった。カードが、鎌倉幕府のしくみを表したものと考えたと思われる。(3)アは、カードをみて、律令国家が九州地方においた役所（大宰府）を書く問題である。正答率は約3割で、誤答としては、「防人」が多かった。各時代の政治のしくみなど、歴史的事象に対する関心を高め、各時代の特色を考えさせることが大切である。(3)イは、カードをみて、律令国家の様子について適切でないものを選ぶ問題である。正答率は約4割であり、誤答としては、「1 人々は、6年ごとにつくられる戸籍に、良民と、奴婢などの賤民に分けて登録された」を選んだものが多かった。学習した内容を活用して、歴史の流れをとらえる学習が大切である。

④は、近代日本の産業革命の歩みに関する基礎的・基本的な知識・理解をみる問題である。(2)アは、八幡製鉄所について述べた文として適切なもの（「筑豊炭田や中国からの石炭と鉄鉱石を利用して鉄鋼を生産した」）を選ぶ問題である。正答率は約5割であり、誤答としては、「1 第一次世界大戦で得た賠償金をもとに建設された」を選んだものが多かった。歴史的事象の背景をとらえる学習が大切である。(2)イは、略地図をみて、八幡製鉄所が建てられた場所として適切なもの（北九州市）を選ぶ問題である。正答率は約7割で、誤答としては、「神戸市」を選んだものが多かった。歴史的事象の指導に当たっては、地理的分野との連携を踏まえ、地図を活用した学習が大切である。

⑤は、人権思想に関する生徒のレポートを読み、人権や政治についての基礎的・基本的な知識・理解をみる問題である。(1)は、社会契約説と抵抗権を唱えたイギリスの思想家（ロック）と、三権分立制を唱えた思想家（モンテスキュー）の組み合わせとして適切なものを選ぶ問題である。正答率は約4割で、誤答としては、ルソーとモンテスキューの組み合わせである「1」を選んだものが多かった。公民的分野の人権思想

に関する学習と、歴史的分野の欧米諸国における市民革命に関する学習との関連を図ることが大切である。

(3)ア②は、日本の三権分立制に関する資料から、命令・規則・処分の違憲・違法審査を表しているものを選ぶ問題である。正答率は、約3割であり、誤答としては、裁判所と国会との関係である「C」を選んだものが多かった。立法・司法・行政のそれぞれの働きを、具体的な事例をとおして理解することが大切である。

⑥は、日本の企業と労働に関する生徒のまとめを読み、経済活動についての基礎的・基本的な知識・理解や、与えられた条件に即して思考・判断し、表現する力をみる問題である。(1)ウは、株式や債券を売買する特定の場所の名称(証券取引所)を書く問題である。正答率は約4割であり、誤答としては、「市場」が多かった。社会の変化に対応した金融に関する学習を重視し、金融のしくみを理解することが大切である。

(1)エは、株価の変動について説明した文章を読み、株価が上がる理由を説明する問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、「供給量が需要を上まわる」のように、市場で商品の価格が決まるしくみを説明したものが多かった。問われている内容を正しく理解した上で、理由を適切に表現する力が大切である。

⑦は、京都・奈良についての妹と兄の会話を読み、地理、歴史、公民の各分野に関する基礎的・基本的な知識・理解や、資料活用の技能を総合的にみる融合問題である。(2)は、京都で起こった歴史上のできごととして適切なもの(「織田信長が本能寺で明智光秀に攻められた」)を選ぶ問題である。正答率は約4割であり、誤答としては、「2 天武天皇が京都に都を移した」を選んだものが多かった。各時代の特色や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な歴史的事象をとらえることが大切である。(5)は、市民が条例の制定を市長に直接請求したいとき、最低必要な有効署名数を求めて、適切なもの(30000人)を選ぶ問題であり、正答率は約5割であった。誤答としては、人口の3分の1の数である「3 60000人」や、有権者数の3分の1の数である「4 50000人」を選んだものが多かった。地方公共団体の政治のしくみについて理解し、直接請求権の知識を活用して実際に必要な署名数を求める技能が大切である。

社会では、複数の資料から必要な情報を読み取り、目的に応じて活用する力や、基礎的・基本的な知識を活用し思考・判断したことを、その理由や背景を踏まえて適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 社会

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)				
①	(1)	2	世界	フィヨルド	65.7	⑤	(1)	2	人権思想家たちの人物名	38.9	
	ア	2	コーヒー豆	56.5	(2)		2	フランス革命	60.1		
	(2)	イ	3	ブラジルの経済	42.5		ア	①	2	内閣不信任の決議	84.0
	ウ	2	2	バイオエタノール	79.2		②	2	命令・規則・処分の違憲・違法審査	31.1	
	(3)	3	3	地球上でシンガポールの反対の地点の経度	68.8		イ	3	衆議院の優越	59.3	
(4)	2	2	メルカトル図法の特徴	85.9	(4)	2	公共の福祉	58.1			
②	(1)	2	日本	日本海側の気候	47.0	(5)	2	精神の自由	75.6		
	(2)	2	2	フォッサマグナ	59.6	⑥	イ	2	利潤	77.8	
	(3)	2	2	知床	48.8		ア	2	株主総会	80.8	
	ア	3	3	東北自動車道沿いに工場が進出する理由	72.9		ウ	2	証券取引所	39.3	
	イ	2	2	東北地方の工業出荷額	92.3		エ	3	株価の変動のしくみ	64.4	
ウ	2	2	東北地方の伝統産業	76.9	(2)		2	現代日本の企業	61.1		
③	(1)	2	古代	政治のしくみの時代順並べ替え	64.5	(3)	2	多国籍企業	86.7		
	ア	2	2	管領	32.4	(4)	2	団体交渉権	87.2		
	イ	2	2	日明貿易	73.6	(1)	2	東大寺南大門の金剛力士像を制作した人物名	85.1		
	ア	2	2	大宰府	30.4	(2)	2	京都で起こった歴史上のできごと	37.0		
	イ	2	2	律令国家の様子	35.2	(3)	2	町衆	20.3		
(4)	ア	2	2	大老	48.8	(4)	3	京都の景観や町並みを守る条例	74.5		
イ	3	3	3	江戸幕府による大名の配置のくふう	72.4	(5)	3	直接請求権	46.4		
④	ア	2	2	殖産興業	51.0	(6)	2	近郊農業	88.7		
	(1)	イ	2	2	官営模範工場	64.1	⑦	京都・奈良の文化と社会			
	ウ	2	2	近代の日本のできごと	46.5						
	ア	2	2	八幡製鉄所の歩み	50.7						
	(2)	イ	2	2	八幡製鉄所の位置	73.1					
	ウ	2	2	足尾銅山	61.4						
	(3)		2	2	日本の時代区分(近代)	62.4					

## 数 学

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)、(2)は全体的に正答率が高く、数と式についての知識・技能は定着しているものと思われる。(1)エは、正答率は約5割であったが、与えられた式を3倍して計算する方法や、符号に注意せずに解いた誤答が見受けられた。(3)は、正答率は約8割であったが、関係を表す式を等式の性質を用いて目的にあうように変形できなかったと思われる誤答が見受けられた。(4)は、二次方程式を因数分解をして解く問題であり、正答率は約6割であった。 $ab = 0$ のとき、 $a = 0$ または $b = 0$ になることを理解していない誤答が多かった。(5)は、正答率は約5割であった。変域のある $y = ax^2$ について、グラフの特徴と関連づけて解くことができなかつたと思われる。(6)は、中央値を求める問題であり、正答率は約7割であった。中央値・平均値についての知識が定着していないための誤答が多かった。(7)の、角の二等分線を作図する問題は、正答率が約9割であった。誤答のなかには図形の対称性に着目したり、図形を決定する要素に着目したりすることができなかつたものが見受けられた。(8)は、平行線と角の性質を利用して解く問題であり、正答率は約4割だった。誤答は多岐にわたり、平行線の性質や多角形の内角・外角の性質をうまく利用することができなかつたと思われる。

②は、見通しをもって思考・判断する力を問う問題である。(1)は、大小2つのさいころの目の組み合わせを題材とした確率についての問題である。正答率は約6割であり、場合の数を数え間違えたと思われる誤答が多かった。(2)は、身近な事象に関して連立方程式を利用して解く問題であり、正答率は約4割であった。4人分であることを考えずに解いた誤答や、無答も多かつた。1人分という特定の量に着目して式を作ることができなかつたと思われる。

③は、観察、操作を通じてその立体図形、平面図形の性質を読み取るなど、論理的に考察し表現する力をみる問題である。(1)は、投影図から空間図形を読み取り、その立体の体積を考えて円錐の高さを求める問題である。正答率は約4割であった。円錐や球の体積の公式を理解していないこと、 $h$ の方程式を解くことができなかつた誤答が多かつた。(2)アは、三角形の相似の証明についての問題であり、正答率は約5割であった。角の大きさが等しい理由を示していない誤答が多かつた。円周角の性質を利用し、筋道を立てて証明する力が大切である。(2)イは、三平方の定理と相似についての融合問題であり、正答率は約2割であった。2つの三角形が相似であることをみだし、三平方の定理を利用し、二次方程式を解くことができなかつた誤答や、無答も多かつた。

④は、直線や放物線と図形を関連付けながら、論理的に考察する力をみる問題である。(1)は、正答率が約8割であった。 $x$ の値を代入した後に計算を間違えたと思われる誤答が見受けられた。(2)は、正答率は約6割であった。2点がわかっているときの直線の式を求めることができなかつた誤答が多かつた。(3)は、 $y$ 軸で分割される二つの三角形に着目して面積を求める問題で、正答率は約6割であった。(4)は、正答率は約1割であった。 $\triangle OAB$ の面積を二等分された図形を見つけることができなかつたもの、点 $Q$ の $x$ 座標を $t$ としたときの三角形の面積を文字式で表すことができなかつたもの、また、無答も多かつた。

⑤は、連続する自然数を並べたときの規則性を見だし、発展的な見方・考え方をする力や、文字を用いて式に表現したり、数学的に処理する力をみる問題である。(2)イは、正答率が約7割であった。行と数字の並び方の関係を理解していない誤答が見受けられた。(2)ウは、正答率が約5割、(2)エは、正答率が約4

割であり、いずれの問題においても、 $m$  行目の 1 列目の数と求めたい数の差を間違えた誤答が見受けられた。(2)オは、正答率が約 2 割であった。文の中の『 $1+1, 4+1, 9+1, 16+1, \dots$ と考えることができる』を、そのまま  $m$  を用いて『 $m^2+1$ 』とした誤答が多かった。(2)カは、正答率が 1 割を下回った。[太線枠の中にある数の表し方]での考え方をもとに、[太線枠の外にある数の表し方]について順序立てて思考することができなかつたと思われる。(3)も、正答率が 1 割を下回り、式の値を求める際に、 $m, n$  に的確に代入することができなかつた誤答が見受けられた。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけではなく、数量や図形などに関して基礎となる原理や法則について理解を深め、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 数 学

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
1	ア 3 イ 3 ウ 3 エ 3 オ 3	数と式	正負の整数の計算 (加減)	99.0	3	図形	投影図・立体の体積	35.8	
			正負の整数の計算 (除法)	90.8			51.9		
			正負の整数の計算 (累乗)	90.4	4	関数	三平方の定理・相似な図形の性質の活用	15.9	
			文字式の計算	53.7			関数 $y = ax^2$	78.6	
	(2)	4	関数	平方根の計算	85.0	4	関数	一次関数	60.4
				比例式	87.3			関数 $y = ax^2$ の利用	58.2
	(3)	4	関数	式の変形	75.7	4	関数	関数 $y = ax^2$ の利用	14.9
	(4)	4	関数	二次方程式	55.5			5	数と式
	(5)	4	関数	関数 $y = ax^2$	46.7	2	数と式		
	(6)	4	資料の活用	中央値	66.7			2	数と式
	(7)	4	図形	角の二等分線 (作図)	85.1	2	数と式		
	(8)	4	図形	平行線や角の性質	35.9			2	数と式
2	ア 4 イ 4	数と式	資料の活用	確率	61.8	4	数と式		
			連立二元一次方程式	35.1	35.8				

## 理 科

①は、生物・地学分野の小問集合である。(1)イは、被子植物の生殖、発生の過程で、誤りを見つけて正す問題であり、正答率は約7割であった。植物の生殖と発生に関する基本的な知識は定着していると思われる。(2)イは、黒点が移動して見える理由を選ぶ問題であり、正答率は約6割であった。(3)イは、湿度表を使って湿球の示す温度を求める問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、乾球の示す温度14℃に乾球と湿球の示す温度の差3℃を加えた「17℃」が多かった。乾球の示す温度より湿球の示す温度が低くなることが十分に理解されていないと思われる。

②は、物理・化学分野の小問集合である。(1)イは、斜面を転がる小球の平均の速さを求める問題であり、正答率は約5割であった。誤答としては、小球がC点からD点まで移動した距離を求めたものが見受けられた。(2)イは、化学変化の後にできる物質を単体と化合物に分類する問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、3種類の化合物ができる「3」を選んだものが多かった。単体と化合物の違いがわからなかったと思われる。(3)イは、密度が異なる液体におけるプラスチックの浮き沈みについて、実験結果から思考・判断し表現する問題であり、正答率は約6割であった。

③は、植物の光合成と呼吸に関する問題である。(2)は光合成を行う生物を選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。誤答としては、シイタケを含めているものが見受けられた。シイタケを植物として認識しているものと思われる。(3)イは、呼吸を明らかにするための対照実験として適切な条件を選ぶ問題で、正答率は約5割であった。(4)アは、植物に強い光を当てた後の二酸化炭素濃度と酸素濃度の大小関係の組み合わせを選ぶ問題で、正答率は約5割であった。(4)イは、弱い光の下で、二酸化炭素の濃度が等しかった理由を記述する問題で、正答率は約3割であった。誤答としては、酸素の出入りにも触れているものが多かった。問題文を読み取り、必要な情報を目的に応じて活用し、実験結果の理由を適切に表現することができなかつたと思われる。

④は、塩化銅の電気分解に関する問題である。(2)アは、電極に発生した気体の化学式を書く問題で、正答率は約3割であった。誤答としては、「C1」と原子の記号で書いたものが多かった。原子の記号と化学式の区別が十分にできていなかったと思われる。(3)は、電流を流した時間毎に電気分解した塩化銅の質量を求め、グラフとして表現する問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、付着した銅の質量や発生した塩素の質量をかいたものが多かった。問題文の内容を注意深く読み取ることができなかつたと思われる。(4)は、電気分解によって水溶液中の塩化銅の質量が減少したときの、溶液の濃度を求める問題であり、正答率は約2割であった。質量パーセント濃度の公式を十分に活用しきれなかつたと思われる。

⑤は、電流が磁界から受ける力に関する問題である。(1)は、抵抗に流れる電流を求める問題であり、正答率は約7割であった。(2)は、電流の流れる向きと磁石の磁界の向きとの組み合わせを選ぶ問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、電流の向き、磁界の向きのどちらか一方を間違えたものが多かった。(3)イは、実験について述べたそれぞれの文章について、実験の結果を総合的に思考・判断し、誤っているもの一つを選ぶ問題であり、正答率は約3割であった。誤答としては、「2」を選んだものが多く、与えられたデータから、それぞれの抵抗に流れる電流を計算で求めなかつたと思われる。(5)は、電流が磁界から受ける力の利用についての問題であり、正答率は約2割であった。モーターに比べて、スピーカーにつ



いては定着していないと思われる。誤答としては、電磁誘導を利用している「3」の変圧器を選んだものが多かった。

〔6〕は、堆積岩の特徴とでき方、地層の広がりやでき方に関する問題である。(2)は、主な堆積岩について特徴やでき方を問う問題である。(2)アは、ある堆積岩の特徴から「石灰岩」を選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。誤答としては、チャートと判断して選んだ「4」が多く、岩石を区別するための観察が十分ではなかったと思われる。(3)イは、地形断面図と柱状図から、地層の広がりを総合的に思考・判断する力をみる問題であり、正答率は1割であった。誤答としては、「4 [m] ~ 12 [m]」が多く、二つの図を十分に関連させることができなかつたと思われる。(3)ウは、ある地点における地層が堆積した期間の大地の変動に関する基礎的な知識を問う問題であり、正答率は約6割であった。水面の上昇が海底などの沈降によって、岸から遠ざかるという現象の理解が十分ではなかったと思われる。

〔7〕は、音の伝わり方と反応するしくみに関する問題である。(4)は、マナブさんがはかった時間と音の速さから、マナブさんからリカさんまでの間の距離を計算し選ぶ問題であり、正答率は約3割であった。誤答としては、「4」が多く、音が伝わった経路が往復分であることを思考できなかつたと思われる。

理科では、観察、実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や、グラフや表から得られた情報を目的に応じて活用する力に加え、事象を多面的にとらえて科学的に思考・判断し、適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 理科

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)					
1	(1)	ア 2	被子植物の生殖と発生 生殖の種類	91.6	5	電流が磁界から受ける力	(1) 2	オームの法則による電流の計算	67.4			
		イ 3		被子植物の生殖と発生のようす			73.5	(2) 2	電流と磁界の向きの組み合わせ	55.2		
	(2)	ア 2	太陽の表面のようす 黒点	96.6			(3) ア 2	実験ではわかりの示した値	91.9			
		イ 2		黒点が移動して見える理由			63.6	イ 3	実験の結果からわかること	33.1		
	(3)	ア 2	気象要素 天気図記号	80.4			(4) 3	コイルを逆に動かす方法	89.1			
		イ 3		湿球の示す温度の求め方			56.3	(5) 3	電流が磁界から受ける力の利用	18.6		
2	(1)	ア 2	小球の運動エネルギー 小球の運動エネルギー	85.3	6	堆積岩の特徴とでき方	(1) 2	岩石が気温の変化等によってもろくなる現象	81.3			
		イ 2		小球の平均の速さ			49.3	ア 2	石灰岩の特徴	68.8		
	(2)	ア 2	いろいろな化学変化 化学反応式の表し方	69.9			イ 3	れき岩に含まれる粒の形と流水による運搬	65.2			
		イ 3		化学変化の後にできる物質とその分類			64.9	ア 2	示準化石	80.7		
	(3)	ア 2	身のまわりの物質とその性質 無機物と有機物の燃焼	72.3			(3) イ 3	地形断面図と柱状図から読み取る地層の広がり	11.2			
		イ 3		液体の密度の大小とプラスチックの浮き沈み			63.4	ウ 3	地層の広がりやでき方 地層のでき方と堆積した期間の大地の変動	57.6		
3	(1)	光合成と呼吸	光合成を行う細胞内のつくり	95.7	7	音の伝わり方と反応するしくみ	(1) 2	音の伝わり方	81.6			
				光合成を行う生物			67.8	(2) 2	音の聞こえ方	92.4		
	(2)		袋の中で発生した気体の調べ方	92.5			(3) 3	意識して起こす反応	81.1			
			呼吸を明らかにするための対照実験	51.6			(4) 3	光が見えてから音が聞こえる理由	89.1			
	(4)		強い光を当てた後の二酸化炭素と酸素の濃度	54.6							音が聞こえるまでの時間と音の速さを使った距離の求め方	28.1
			光の強さと光合成・呼吸の関係	33.5								
4	(1)	電離 塩化銅の電気分解に関わる物質と性質	電離	78.0								
			陽極で発生した気体の化学式	34.5								
	(2)		電極の区別とイオンの移動	69.0								
			金属の性質	88.4								
	(3)		物質の質量の関係	電気分解した塩化銅の質量変化						36.0		
			電気分解した水溶液の濃度	電気分解した溶質の質量から残った水溶液の濃度を求める計算						16.1		

## 英 語

①は、放送による問題である。(1)は、英語の説明や質問を聞いて適切な絵や応答文を選ぶ問題である。正答率は約9割であった。(2)は、日本に留学している外国人と友人についての話を聞いて答える問題である。アとウの正答率は約9割で、イの正答率は約7割であった。(3)は、二人の生徒の対話を聞いて答える問題である。アの正答率は約8割、イの正答率は約9割、ウの正答率は約6割であった。全体的に正答率は高く、様々な情報を整理し、話の内容や要点を適切に聞き取ることができていたと思われる。

②は、英作文の問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語句を並べかえる問題である。アの正答率は約8割、イの正答率は約7割であった。ウの正答率は約6割であり、「Which do you like color?」のように、疑問詞 + 名詞の理解が十分ではないと思われるものが多かった。(2)は、与えられた資料の内容と合うように英語で適切に書く問題であり、正答率は約8割であった。(3)は、新しく買ったお気に入りの靴を友人から見せてもらったとき、自分なら何と言うかを15語以上の英語で書く問題である。新しい靴をほめたり、更に情報を聞き出したりする表現などを組み合わせてうまく書くことができなかつたと思われるものや無答も多かった。

③は、生徒と日本に留学していた外国人の友人との間でやりとりされた電子メールを題材とした問題である。(1)は、電子メールのやりとりを正確に読み取った上で適切な英文を選ぶ問題であり、AとBの正答率は約6割であった。(2)は、展開に合わせて適切な英文を書く問題である。アの正答率は約1割、イの正答率は約2割、ウの正答率は約3割であった。ア、ウは、文章の大まかな流れはつかんでいるものの、適切な表現を使って英文を作ることができなかつたと思われるものが多かった。イは、「When will we go to your country?」のように、主語や動詞を適切に用いることができなかつたと思われるものが多かった。

④は、英語の授業で行った生徒のスピーチを題材とした問題である。(1)は、スピーチの内容と合うように、適切な日本語を書く問題であり、ア、イの正答率は約8割、ウの正答率は約6割であった。(2)は、英問英答の問題である。2の正答率は約4割で、「Because the water we can use is limited.」のように、本文の内容を正確にとらえていないと思われるものが多かった。3の正答率は約3割で、「She will use about 100 liters of water.」や「She will turn off the water.」のように、wash clothes を含んだ文の前後を抜き出したと思われる誤答が多かった。(3)は、日本語を英語に直す問題である。1の正答率は約2割で、「I don't know ~」のように時制をしっかりとらえていないと思われるものや、「what I to do」のように、疑問詞 + 不定詞の理解が不十分だと思われるものが多かった。2の正答率は1割を下回り、「I think about it」のように時制をしっかりとらえていないと思われるものや、「I decided to some thing」のように不定詞、複数形の理解が不十分だと思われるものが多かった。語の配列や語法などを思考・判断し、適切な英語を書く力が大切である。

⑤は、「生徒が、学級対抗全員リレーを通して、みんなで意見を共有することやあきらめずに取り組むことの大切さに気付いた」という内容の長文についての問題である。(1)は、本文の内容と合うように英文を完成させる問題である。ア、イ、エの正答率は約6割、ウの正答率は約7割であった。本文の内容については概ねとらえられているものと思われる。(2)は、本文の内容と合うように適切な語を選び、英文の要約を完成させる問題である。アの正答率は約4割で、「1 started」や「4 played」のように、make + 目的語 +

補語の語法を十分に理解していなかったと思われるものが多かった。イの正答率は約6割、ウの正答率は約7割であった。(3)は、下線部が表している内容を日本語で具体的に書く問題である。正答率は約2割で、答となる文が one more important reason の直後の文であることを読み取り、適切な日本語にまとめることができなかったと思われるものや無答も多かった。

英語では、英文の大まかな流れをつかみながら重要な部分を正確に理解する力や、文の構造を理解した上で状況に合わせて適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題正答率 英語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)			
1	(1)	ア 3	英文と質問を聞いて、適切なものを選ぶ。	96.3	4	ア 2	スピーチの内容と合うように、適切な日本語を書く。	75.1		
		イ 3	英文と質問を聞いて、適切なものを選ぶ。	84.0				イ 2	79.2	
		ウ 3	英文と質問を聞いて、適切な応答文を選ぶ。	79.9				ウ 2	58.1	
	(2)	ア 3	英文を聞いた後で、その内容についての質問に対する適切な答を選ぶ。	97.4		1 3	ライディング	スピーチの内容についての質問に英語で答える。	73.1	
		イ 3		69.2					2 3	36.9
		ウ 3		91.8					3 3	34.1
	(3)	ア 3	対話を聞いた後で、その内容についての質問に対する適切な答を選ぶ。	78.6		1 3	ライディング	下線部の日本語を疑問詞+不定詞を含んだ英文に直す。	19.0	
		イ 3		87.7					2 3	3.4
		ウ 3		57.8						
2	(1)	ア 2	意味が通るように語句を並べかえて、不定詞を含んだ英文を完成させる。	82.1	5	ア 3	本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切なものを選ぶ。	61.7		
		イ 2	意味が通るように語句を並べかえて、連語を含んだ英文を完成させる。	71.3				イ 3	64.0	
		ウ 2	意味が通るように語句を並べかえて、疑問詞+名詞を含んだ英文を完成させる。	57.1				ウ 3	70.9	
	(2)	2	資料に書かれてあることを参考にして、適切な英語を書く。	75.3		エ 3	56.5			
	(3)	6	15語以上の英語で、自分の考えを書く。	平均点 2.6		ア 3	38.6			
	3	(1)	A 2	電子メールを読み、空所に入る適切な英文を選ぶ。		61.7	ライディング	イ 3	本文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。	57.9
B 2			62.0		ウ 3	65.0				
ア 3			12.7	(3)	4	下線部が表している内容を日本語で具体的に書く。		17.0		
(2)		イ 3	電子メールを読み、空所に入る適切な表現を英語で書く。					24.9		
		ウ 3						31.4		